尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業　教育・研究活動事業実績報告書

<table>
<tr><td>教育･研究活動名</td><td colspan="5">尼崎市における「防災福祉力」向上プロジェクト</td></tr>
<tr><td rowspan="2">申請大学･高校等名</td><td>大学及び
高校等名</td><td colspan="4">関西大学</td></tr>
<tr><td>活動
グループ名</td><td colspan="2">近藤誠司研究室</td><td>参加学生
等人数</td><td>29 人</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指導責任者名
及び連絡先</td><td>学部･学科等
名称</td><td colspan="4">社会安全学部　安全マネジメント学科</td></tr>
<tr><td>責任者氏名</td><td>近藤誠司</td><td>連絡先
電話番号</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">協働する市民活動団
体及び代表者名</td><td>団体名</td><td colspan="4">尼崎市難病団体連絡協議会</td></tr>
<tr><td>代表者氏名</td><td>小山昇孝（事務局長）</td><td>連絡先
電話番号</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>教育･研究活動
目標</td><td colspan="5">尼崎市は南海トラフ巨大地震が発生した場合、市域で甚大な被害が発生することが予想されている。また大型台風による高潮災害のリスクも高い地勢にある。そうしたなか、難病患者、障害児者、高齢者などの要配慮者は、防災対策を促進することが急務となっている。そこで本プロジェクトでは、要配慮者との交流を通して、学生が防災と福祉の実態を学び、「防災福祉力」向上策を検討し、市民に向けた情報発信をおこなう。</td></tr>
<tr><td>活動内容及び
実績、評価</td><td colspan="5">（活動内容及び実績）

以下に述べるとおり、本年度は大きく6つの事業を成し遂げることができた。

（1）難病患者団体連絡協議会の要配慮者災害シンポジウム
11 月 12 日（日）に身体障害者福祉会館大ホールにて、難病連主催の要配慮者シンポジウムを実施することができた（図1）。障害者福祉や高齢者福祉の立場から、防災と福祉の領域に関する取り組み事例などを紹介していただき、参加者は情報交換や交流を行うことができた。後半のパネルディスカッションでは、大学生も登壇した。

図 1
（2）障害当事者家庭ヒアリング調査
上述したパネルディスカッションに先駆けて、障害当事者家庭のヒアリング調査を実施した。ひとりは自閉症児の保護者、ひとりは人工呼吸器装着児童の保護者である。
防災の関する取り組みや課題などを大学生がヒアリングし、パネルディスカッションの場で発表した。</td></tr>
</table>

（3）難病連アンケート調査

また、上述したシンポジウムに先駆けて、難病連主催の医療相談会の際に、防災に関する簡易アンケートを実施した（図2）。72名から回答を得て、分析したのち、シンポジウムの前半で結果を紹介した。

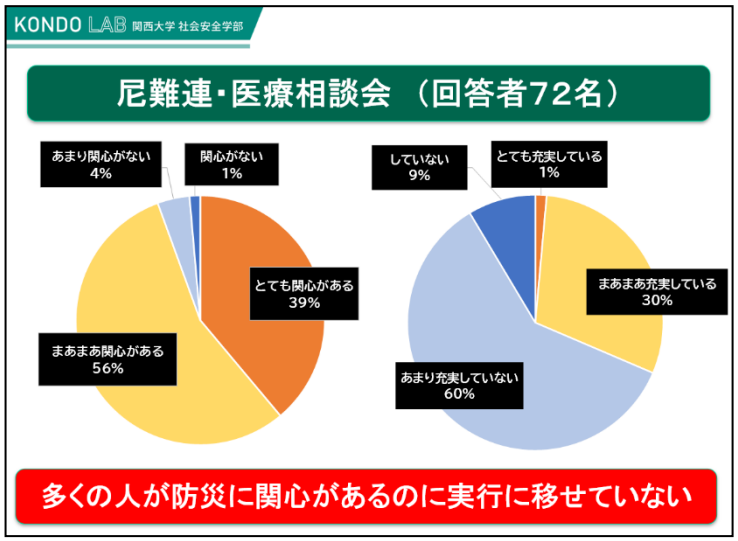

図 2

（4）あま咲き放送局における防災福祉番組の開発

クラウドファンディングで放送をスタートさせた「あま咲き放送局」において、10分間の防災と福祉に関するトーク番組シリーズを開発し、毎週木曜日の朝10時頃に放送することになった。コーナータイトルは、「あま咲き防災ラボ」である（図3）。

すでに20本を超える番組を放送して好評を博している。上述したシンポジウムやアンケートの結果も、この放送で紹介した。

図 3

（5）尼崎市民祭りにおける防災ブースの出展

尼崎市民祭りでは、児童のための「防災フリスビー」コーナー（図4）と、保護者のための「おためし段ボールベッド」コーナー（図5）を実施した。

当日は、朝からの雨にもかかわらず大盛況で、いずれも 100 名程度の参加があった。段ボールベッドは、尼崎市災害対策課から提供を受けた。段ボールベッドの寝心地をアンケートし、その結果を上述した「あま咲き防災ラボ」で放送した。

図 4

図 5

（6）特別養護老人ホーム・喜楽苑の防災訓練視察

2023年 11 月 26 日（けま喜楽苑）、2024 年 2 月 13 日（喜楽苑）、それぞれの防災訓練を視察した。これは、昨年度に実施した尼難連シンポジウムが縁となったつながりである。本学のキャンパスがある大阪府高槻市において、高槻市介護保険事業者協議会とコラボした防災シンポジウムに登壇していただき、交流することもできた。今後、さらにつながりが発展していけるものと期待している。

（評価）

本年度は、コロナ禍が落ち着いたこともあって、とても活発に取り組むことができたものと評価している。想定していた以上に学生たちは現場から多くの刺激を受けて、尼崎市に足を運ぶ回数も増えた。そしてゼミ室でも（ゼミ内のSLACKでも）、尼崎市のことを話題にする機会が圧倒的に増えている。

（1）・（2）・（3）・（4）の取り組みは、次年度もかたちを変えながら継続していけるものと考えている。すでに、次年度の打ち合わせがスタートしている。

（5）・（6）は、これから特に発展していきそうである。ラジオ局スタッフや放送を支えているメンバーからの期待は大きく、学生の学習意欲・参加意欲も高まっている。また、特別養護老人ホームにおける防災訓練を視察できる機会は稀有なことから、学生は熱心に足を運び、現場の実情（たとえば、BCPの策定状況など）を探求しようとしている。参加メンバーのうち 1 名は、次年度大学院に進学して、防災と福祉の領域で修士論文を執筆する決意である。